

全国港湾Fax通信

No.

(公・事・取扱注意・親展)(写)	(発番) 全国港湾19FAX第88号
(宛先)	2020年 5月22日 時 分
各 四役、中執、単組委員長、地区港湾議長 殿	(発信者)
	全国港湾書記局

(件名)

20 港湾春闘情報(3)

(本文) 20 港湾春闘はコロナウイルス感染症の拡大を受けて、2月20日(木)に第1回中央港湾団交を開催し要求書を提出した。3月4日に新型コロナウイルス感染拡大などに配慮し、第2回団交の延期を確認した。それ以降、事務折衝を行い事務局間で「文書回答」について準備することを確認したが作業が停滞していた。5月15日に組合側から、「20春闘仮協定案」という体裁で考え方を示し、日港協に踏み込んだ回答を準備するよう要請した。日港協は、組合側の強い要請を踏まえ、5月21日に文書によって第1回回答を示した。

22日に開催した第9回戦術委員会(港運同盟と合同)は、日港協の回答を分析し、コロナ禍の中で命の危険にさらされる中で作業を行っている現場の負託に応えることが20港湾春闘の大事なポイントと意思統一し、日港協の回答に対して大幅修正を求めることとした。その上で今後の進め方として、25日の政府発表をもって団交再開の申入れを行うことを確認した。産別交渉が進展しない中、個別賃金交渉が進展していませんが、5月22日現在の各単組の取り組み経過を報告します。

1. 各単組の取り組み状況について(4月10日現在)

(1) 全港湾 速報分会回答状況について、140分会中78分会(56%)に有額回答が示され、回答額平均は3,300円、率で1.18%となっている。

参考までに、昨年最終回答平均額は、3,995円、妥結額平均は4,104円であった。

(2) 日港労連 5月21日第3回関連労使交渉を神戸市内で開催した。業側は、20春闘基準内賃上げについて、一連の新型コロナウイルスによる状況と一時金交渉と併せ支払い能力がないことから、5月末までには解決を目指したいとした。組合側は、①19春闘妥結金額に向けた解決、②5月29日までに解決すること、③交渉の推移により対角線交渉を行うことを要請し、各単組円満解決できるよう求めた。

(3) 検数労連 5月14日に検数労連代表者会議を開催し、新型コロナウイルスの影響により停滞している20春闘の動向について全国の共通認識を図った。港湾産別と同様に5月中の解決を目指すことを確認した。

(4) 検定労連 海事検定職組は、昨年並み改定水準をもって交渉のスタートとすることを確認し、交渉再開を準備している。シンケン労組は4日6日に組合

員一人平均、4,181 円で大筋合意となった。

- (5) 全倉運 5月8日現在、28組合単純平均、4,862円(1.85%)組合員2,106人の加重平均で、4,807円(1.85%)となった。単純平均、加重平均とも前年度同時期を額・率とも下回っている。
- (6) 大港労組 5月20日に第3回船内統一交渉を行ったが、「検討に値する回答なし」次回団交は未定。
- (7) 全日通 3月12日(木)に妥結。
賃金については、3,470円、一時金年間3.2ヵ月。

2. 他団体の賃上げ状況について

(1) 連合

5月11日現在、平均5,683円(1.93%)で、昨年同期を534円(0.17ポイント)下回った。中小組合(300人未満)は、4,725円(1.94%)昨年同期を301円(0.08%)下回った。

(2) 国民春闘共闘

5月18日現在、単純平均(480組合)4,982円(1.94%)。加重平均(66,512人)5,992円(2.10%)となった。

(3) 経団連

5月21日現在、大手86社 7,297円(2.17%)/昨年実績、8,245円(2.43%)

以上